

令和2年度 津久井地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年11月19日(木)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 津久井総合事務所3階 第1・2会議室
- 3 市側出席者 本村市長、隠田副市長、中島緑区長、石井市長公室理事、小野副危機管理監、村田緑区副区長、渡邊市民局長
- 4 出席委員等 23人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	地域コミュニティと防災
概要	<p>つくい元気部会では、平成28年度に防災の「自助活動」について、自治会の班長・組長等約180名を対象に意識調査を実施した。その結果、備蓄品等についてはある程度準備をしているが、公共施設以外の避難場所の確保や、外出中の家族との連絡手段を決めていない方が、約半数程度いる状況である。</p> <p>「自助」の取組については、個人的な部分ではあるものの、市や地域で継続した啓発を行い、意識向上を図らなくてはならないと考える。</p> <p>また、自分の地域は自分で守る「共助」についても重要と考えている。</p> <p>昨年度は、津久井地区の自治会加入世帯を対象とした「自助」・「共助」に関するアンケートを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により見送っており、今年度あらためて状況をみながら実施を予定している。</p> <p>アンケートを実施することにより、地域住民意識の実情把握と今後の地域活動の参考になればと考えている。</p> <p>今回は、地域コミュニティと防災について懇談し、地区防災のあり方について考えていきたい。</p>
地区の取組状況等	<p>津久井地区は、市内においても比較的早い段階で、黄色い小旗による安否確認事業などを自治会で取り入れて実施し、防災の関心は高いと感じている。</p> <p>また、自治会加入率も約65%と市内では比較的高い加入率だと考える。</p> <p>しかし津久井地区は、市街地や中山間地が混在する広範なエリアであり、災害時の対応も「自助」・「共助」がメインになると考えられるが、これは地震災害を想定したもので、風水害に対する備えが浸透していないように感じている。</p> <p>昨年、津久井地区に甚大な被害をもたらした「令和元年東日本台風」の際には、土砂崩れ・河川氾濫・通行止め・断水等の被害があちこちで発生し、また避難場所でも色々な課題が出てきており、現状把握と対策の検討が必要となっている。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人との関わり合いが少なくなっている状況もあり、「自助」・「共助」活動の維持も以前より難しくなっている。</p> <p>これらの様々な課題に対応していくため、アンケート調査を実施して現状を把握し、課題を明確にして今後の活動に役立てていきたい。</p> <p>また、避難方法・避難場所での感染症対策等についても、課題を明確にするとともに、対策が推進されるよう働きかけていきたい。</p>

<p>市の取組 状況等</p>	<p>初めに、昨年の令和元年東日本台風は過去に例のない甚大な人的、物的被害を本市にもたらし、津久井地区においても土砂崩れや河川の溢水、倒木による停電や断水など、多くの被害が発生したものと承知している。</p> <p>こうした中で、被災者への支援や復旧復興については、各まちづくりセンターの担当者の戸別訪問調査により、被災者の生活状況や生活再建に向けた進捗状況などのニーズの把握を行ってきたところである。</p> <p>本年5月には「相模原市復旧復興ビジョン」を策定し、道路や公共施設の復旧、農業や観光産業の復興など、各担当部局において様々な支援に取り組んでいる。</p> <p>令和元年東日本台風では、本市で初めてとなる大雨特別警報が発表され、最大避難者数は6,114人と過去最多となったため、避難場所などにおける様々な課題や教訓が明らかになった。</p> <p>津久井地区においても、風水害時避難場所が自宅から遠く、高齢の方が避難できなかったことや、自治会長の協力により近くの自治会館を自主避難場所として開設し避難する人がいたこと、予想を超える避難者が集中した避難場所があったことなど、様々な課題があったと承知している。</p> <p>こうした課題や教訓を踏まえつつ、併せて新型コロナウイルス感染症対策として、市内の風水害時避難場所を53か所から114か所へと拡充するとともに、非接触型体温計や消毒用薬品などの物品を全ての避難場所に配備した。</p> <p>津久井地区においても、津久井生涯学習センターや青和学園など、避難場所をこれまでの8か所から16か所に拡充し、追加指定した避難場所や風水害時における避難に関するお願いなどを記載したチラシを津久井地区の全戸に配布した。</p> <p>このほか、車による避難やペットの同行避難、避難場所における感染防止対策などを記載した風水害時避難場所運営マニュアルを新たに作成し、このマニュアルを基に、7月に3日間315名の担当職員の研修を実施し円滑な開設運営体制を整えている。11月1日の相模原市総合防災訓練では、中野中学校で避難所開設運営訓練を実施したところである。</p> <p>また、市民の皆様に対して指定された場所への避難だけでなく、安全な場所にある親戚・知人宅への分散避難についても検討いただくよう広報紙や地域情報紙でお願いしているところである。</p> <p>浸水被害や土砂災害の対策として、神奈川県による串川と道志川の洪水浸水想定区域の見直しに伴い、本年9月に「洪水ハザードマップ」を改訂して該当地域に配布し、土砂災害については、発生箇所と土砂災害区域を重ねた状況図を市のホームページで公開するとともに、津久井地区自治会連合会が発行する地域情報紙に土砂災害から身を守るポイントを掲載していただき、周知したところである。</p> <p>また、「自助」「共助」の取組を促進するため、「マイ・タイムライン」の作成の普及啓発に取り組んでいるところである。これは、大雨や台風などの風水害に備え、いつ・どこに・どのように避難するか、安全に避難できる避難場所の事前確認や家族への連絡方法など、市民一人一人が自らの立場であらかじめ決めておく防災行動計画である。作成ガイドブックを各まちづくりセンターに配架しているほか、市ホームページにも作成支援動画を公開しており、併せて、10月か</p>
---------------------	--

	<p>らは「土砂災害ハザードマップ」や「洪水ハザードマップ」などの土砂災害警戒区域、風水害時の避難場所などを一元的に表示できる「さがみはら防災マップ」を市ホームページ上に公開している。</p> <p>今後について、現在神奈川県が土砂災害特別警戒区域を追加指定する基礎調査を行っていることから、来年度以降「土砂災害ハザードマップ」を改訂し、該当する区域に戸別配付する。</p> <p>また、マイ・タイムラインのさらなる普及啓発のため、簡易版ガイドブックを配布希望する自治会を調査しており、自治会を通じて加入世帯に配布しつつ、本市と包括連携協定を締結している企業などと連携した取組を進めていく。</p> <p>津久井地区の皆様が実施する「自助」「共助」に関するアンケート結果を踏まえ、地区防災計画の見直し等の検討が進むよう支援してまいりたい。</p> <p>また、国の動向として、避難指示と避難勧告を一本化するなど避難情報を見直す動きがあるが、その際には市民の皆様に分かりやすく的確にお知らせしたい。</p> <p>最後に、令和元年東日本台風での課題や教訓を踏まえ、津久井地区の実情に応じた防災減災対策について、地域の皆様や神奈川県などと連携し、しっかりと事前の対策を講じ「自助」「共助」「公助」による津久井地区の防災力向上に資する取組を推進してまいりたい。（危機管理局）</p> <p>自治会は、自主的・自立的な組織として、防災、防犯、交通安全、環境美化や福祉の向上など、地域の活性化や身近な課題の解決に向けた活動の中心的な役割を担っていただいていることに感謝している。</p> <p>しかし、多くの自治会において加入率が伸びない状況にあり、高齢の方の退会や若い世代の未加入など活動の担い手が不足しており、市全体の課題である。</p> <p>市は協働による市民主体のまちづくりを推進するため、平成25年8月に市自治会連合会と「連携基本協定」を、平成25年11月に不動産関係3団体、市自治会連合会及び市と「相模原市における自治会への加入促進に関する協定」を締結し、自治会加入促進に取り組んでいる。</p> <p>また、平成30年7月からマイナンバーカードを活用した「地域活動ポイント制度」を開始している。自治会活動のうち、公益性の高い防災・防犯・交通安全・環境美化・地域福祉など安全・安心なまちづくりに資する活動のリーダーを担っていただいている方に、活動参加時にポイントを付与する事業も開始し、担い手不足の解消や負担感の軽減につながるよう考えている。</p> <p>市民局では、本村市長の指示を受け、自治会加入促進に特に力を入れて取り組んでおり、地域の安全・安心なまちづくりを進める上で、安定的な自治会運営が欠かせないことから、市としても引き続き自治会加入促進について、市自治会連合会や地区自治会連合会、各自治会と連携しながら取り組んでいく。（市民局）</p>
--	--

懇談内容	
懇談内容については時間の都合上、地区の発言に対する市からの回答は、後日文書にて行うこととなったため、「地区の発言」のみの記載となっている。	
地区の発言	<p>ひばり放送について伺う。</p> <p>ひばり放送は身近で生活にも密着しており、有事に役立つものだが、以前、防</p>

	<p>災無線が故障したことがあり、ひばり放送が1ヶ月程度止まったことがあった。</p> <p>また、スピーカーの向きの影響か、ひばり放送が聞き取れない場所がある。</p> <p>ひばり放送の情報は、テレホンサービスやTVKのデータ放送、市のホームページ、FM HOT 839（旧エフエムさがみ）でも災害時にひばり放送の内容が放送されるが、津久井地区は山間部であり、雑音が多く聞き取れない場所もある。</p> <p>以上のような状況から、日頃のメンテナンスや改善等は考えているか回答をいただきたい。</p>
地区の発言	<p>風水害時の避難場所と避難所について3点お話しさせていただきたい。</p> <p>昨年令和元年東日本台風の際、鳥屋の避難所はパニック状態であった。その原因は避難者が多かったからである。そうした避難場所の確保という課題に対し、市が新たな風水害時の避難場所を設定したことに感謝したい。</p> <p>しかし、新たに追加された避難場所の設備や物資はまだ十分でないと聞いており、備品や物資などをしっかりと備えておいていただきたい。</p> <p>2点目に、コロナ禍における避難についてである。</p> <p>地域の高齢者からコロナが怖いから避難場所に行かないという声がある。市としては様々な対策を講じ、今後も新たな対策をたてようとしていることは分かったが、その対策の具体的な内容を地域の住民に周知していただきたい。周知することで、一人一人のスムーズな避難行動につながると思う。職員研修も含め、積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>最後に、避難所や避難場所を利用する方は、高齢者や障がい者、妊産婦の方など色々な人がおり、それぞれの方への配慮を必要としている。先ほどの部会長からの説明でも触れていたが、風水害時避難場所の中には、トイレの仕様が和式しかないところがある。利用するすべての方の立場に立って、もう一度それぞれの避難場所の課題を把握し、具体的な対策を練っていただきたい。</p>
地区の発言	<p>近年自然災害が多いが、自衛隊との災害協定はあるのか。</p> <p>また、東日本大震災の支援活動をした際、どさくさに紛れた盗難の被害があったとの話があった。そうした対策として、防犯カメラの設置について主要なポイントのみで構わないので検討していただきたい。</p>
地区の発言	<p>家族が認知症を患っており、時々大声を出したり、異常行動をとったりすることがあるため、災害時、避難所に行くようなことがあれば、他の人に迷惑をかけることになると思い、心配をしている。</p> <p>高齢化の進む今、このような悩みを持っている方は多いのではないかと考えているため、行政にも何らかの考慮をお願いしたい。</p>
地区の発言	<p>先日、新聞のニュースで読んだが、昨年の台風19号の避難経験から児童がマイタイムラインを自分で作る試みを授業の一環として取り組んだ事が伝えられた。とても素晴らしいことだと思う。津久井地域の子どもたちにも体験してもらい、災害が起きた時にどうしたら良いかを子どもたちにも教えてもらいたい。</p> <p>市が自治会を通してマイタイムラインの作成を依頼しているとの話があったが、それだけでなく、様々な組織に啓発をしてもらえれば、より多くの方が自分のものにすると考えている。地域から、マイタイムラインを知っているが用意していないという声がある。自治会も高齢者がやめていることも多く、防災訓練の参加者も大変少ないため、自治会まかせでは増々意識の向上もみれない。何か方</p>

	策はないか。
--	--------

テーマ 2	ピンチをチャンスにした魅力を感じられるまちづくり
概要	<p>津久井地区は、豊かな自然環境と多様な地域資源に恵まれている。しかし課題も多く、近年多発する風水害に対する対策の強化、交通不便地域の解消、都市部流出等による人口減少や少子高齢化によって活動の担い手が不足するなど、地域活力の低下が懸念されている。</p> <p>このような状況を打開するためには、リニア中央新幹線の新駅が設置される橋本駅と並行して開発がすすめられている鳥屋の関東車両基地周辺の利活用や、相模原インターチェンジから土沢方面への広域道路の延伸などの事業を契機とした魅力を感じられるまちづくりが必要である。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「新しい生活様式」が注目されており、津久井地区は水源地であることに加え、豊かな自然と一体化した環境であるため、新生活様式と融合し、人を引き寄せる魅力的な場所へと生まれ変わる「ポテンシャル」を秘めていると考える。</p> <p>こうした現状を踏まえ、空き家を活用したりリモートワークの拠点づくり等、中山間エリアを有効活用した活性化を図りたい。</p> <p>自然が豊かでありながら災害にも強く利便性を活用した生活スタイルを広く発信して、誰もが「住んでみたい、来てみたい」と思える、魅力的なまちづくりについて懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>津久井地区まちづくり会議では、以前からリニア中央新幹線関東車両基地の設置に伴う「回送線の旅客化」や「里山中間駅の設置」による「魅力を感じられるまちづくり」について検討し、提言を行ってきた。</p> <p>このような「魅力を感じられるまちづくり」について、皆で考えてもらうきっかけとして、当まちづくり会議委員の構成団体から86名が参加し、「里山を活かしたまちづくりに関する勉強会」を令和元年6月25日に開催した。勉強会に併せて、アンケートを実施したところ、「回送線の旅客化」、「里山中間駅の設置」については「強く同意する」「やや同意する」との回答が80%を占める結果から、地域住民からも望む声があると判った。こうしたことから、津久井地区まちづくり会議では提言を継続していきたいと考える。</p> <p>また、社会情勢の変化に合わせて、今後は「ピンチをチャンスに変える」が必要と考える。例えば、地区内で課題になりつつある空き家に関しては、平成27年度に津久井地区で実施したアンケート調査で439件の把握をしたが、5年経過した現在ではさらに増加が見込まれる。こうした空き家の活用策として、近年の感染症対策に係る「新生活様式」に着目し、「リモートワーク」等の拠点としての活用を検討していきたい。</p> <p>そのほか、自転車ロードレース大会後の地域活性化として、ロードバイクやクロスバイクでアップダウンを楽しめる環境整備など、山岳地域を活用した取組も併せて検討していきたい。</p>
市の取組状況等	<p>リニア中央新幹線に関しては、2027年開業を目標としてJR東海と神奈川県、相模原市が連携し、鳥屋の車両基地や長竹の非常口の工事を着工している状況である。</p>

	<p>工事に関する車両の搬出など、地域の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。</p> <p>以前からお話を伺っている車両基地を活用した里山のまちづくりについて、地元の皆様の熱い想いをどのように実現するかのアプローチ方法を検討している。</p> <p>皆様の想いを実現するために、難しい課題に対し一つ一つ着実に進めていくことが重要だと考えており、併せて周辺環境を整えることも重要だと考えている。</p> <p>総合計画の区別基本計画において、中山間地域の魅力をどのように相模原市の発展につなげるかを検討しており、すでに2回、青根地域でワークショップを開催し、地元住民の意見を把握しながら周辺地域を活性化させたいと考えている。</p> <p>併せて、同地域においてサウンディング型市場調査を実施し、どのように投資すべきか調査をしている。</p> <p>また、空き家対策をはじめとしたテレワークのターミナルの話について、テレワークの拠点づくりのための実証実験に取り組むところである。</p> <p>この考え方はリニア中央新幹線と結びつき、国土交通省のスーパーメガリージョン構想で藤野地区を中心とした津久井地域がモデル地区として選ばれていることから、国土交通省と実験しているところである。</p> <p>これらを活かして、テレワークと結びつけ、定住や移住の促進につなげたい。</p> <p>津久井地区はオリンピックのロードレースのコースがあり、北丹沢のトレイルレースのスタート地点にもなっているので、様々な資源を活用し、津久井地区の方や地区外の方がどういう新しいライフスタイル、ビジネススタイルを持っているかも含めて考えていきたい。(緑区役所)</p>
--	---

懇談内容	
<p>懇談内容については時間の都合上、地区の発言に対する市からの回答は、後日文書にて行うこととなったため、「地区の発言」のみの記載となっている。</p>	
地区の発言	<p>国道16号は大都市圏の環状線としての機能を果たし、道志みちとして親しまれている国道413号線はオリンピックロードレースのメインコースであるばかりではなく、普段からツーリングコースとして大人気であり、紅葉の時期である今は車やバイクに自転車の渋滞も発生する有様である。信号が少なく、緩やかなカーブの連続も人気の一つである。</p> <p>津久井は以前養蚕業が盛んで絹の道と呼ばれた時代もあり、それは1500年も続いたが、今、相模原津久井はただ通過していくだけの町になってしまった。</p> <p>先日、相模原を撮った番組があったが、相模原は結局特徴がないんだと残念な気がした。切り拓いて育てるといふ何かを生み出していくものがないと人々は集まってこず、喜びを感じないのではないか。</p> <p>リニア中央新幹線の橋本駅が誕生し、引き込み線としての回送線が津久井のど真ん中を通過するので、ただ通過させるだけではなく回送線の旅客化、里山駅を誕生させたい。</p> <p>ディズニーランドのような大きなテーマパークは必要ないとしても相模原に遊び心というか夢を現実に導く気持ちを活性化させたい。</p> <p>少子高齢化とか過疎化等様々な課題を気にしていくより、やりたいことをどんどん押し進めていく、不可能を可能にするバイタリティーを求めたい。</p> <p>橋本協同病院の移転、圏央道相模原インターチェンジの充実により、温泉や里</p>

	<p>山的な豊かな自然、オリンピックロードレースの開催地等々、相模原津久井へ向かって注目度はどんどん高まるばかりであるため、JRと国への強力なアプローチと運動をしてほしい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>津久井には世界一の相模寝姿観音、2つの国立国定公園を有し、3本の一級河川、4つの特色ある地域、5つの湖等、たくさんの地域資源がある。</p> <p>この大自然に先行して商工会が光ケーブルを誘致、敷設したところに、圏央道が作られ、中央道と併せ3つのインターチェンジを有している。</p> <p>リニア中央新幹線の関東車両基地や橋本駅と本線が通過するエリア等、スーパーメガリージョンの中核地域となり、羽田空港から30分という地の利を得た。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の脅威の一方、リモートワーク、ホームワーク等、新しい生活様式が社会的に認知され、都心部ではなく中山間地域が脚光を浴びることとなり緑区にチャンスが訪れた。</p> <p>単なる緑が多い地区ではなく、長寿社会を見据えたプランニングを始める時期が来ている。</p> <p>キーワードは、生活多様性、長寿、健康、雇用など、人が人らしく生きる第2ステージの旅立ちの地、長寿社会における世界標準都市になるよう熱望し、議論してきた。</p> <p>価値ある大プロジェクトを机上の空論にしないよう、民間企業や市民参加で都市計画づくりを進めてほしい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>2点お話しさせていただきたい。</p> <p>1点目は空き家の活用、移住者の増加を目指し、カントリー生活の魅力向上のための農地の開放策である。</p> <p>課題背景として、空き家の増加。耕作放棄地の増加、それに伴う獣被害の増加、ヤマビルの被害の増加。野菜を作って、カントリー生活を楽しまたいという移住者にとって、立地環境から津久井にチャンスがある。と考えられる。</p> <p>しかし、農地法の規制により、荒れ放題の農地であっても農地を購入することや借りることが難しく、いわゆる闇耕作が多々見受けられる状況である。</p> <p>農地を買える人、借りられる人は、農家で計画含め20a以上耕作していないとしないという規定があり、これを満たす人は津久井在住者でもわずかである。</p> <p>また、地元を離れた人が小規模の農地を相続する事例が増えており、耕作放棄地となり荒れ放題になっている農地も増えている。</p> <p>そうした人達は農地法の規制により、地元に残る親族に農地を譲ることができないが、もし地元の人たちに譲ることができれば、耕作まではできないとしても、草刈はできると思う。</p> <p>対策として、農地を買える人、借りられる人の条件の大幅緩和を行うことで、農業を楽しみたい移住者を呼び込めると考える。</p> <p>農地の譲渡や売買の下限面積は相模原市の農業委員会で決められると思うが、難しいとこのことがあれば特区の制度も活用できないか検討していただきたい。</p> <p>2点目に、観光策として道の駅の設置と自転車道の整備をお願いしたい。</p> <p>課題背景として、津久井地区は、休日ともなると、多くのロードバイクが、走っているという現状。オリンピック自転車競技コースの一部で、今後、知名度が上がる。整備すれば、マウンテンバイクが楽しめる山もあり、マウンテン</p>

	<p>バイクコースや、自転車道ならば、ヤマビルの被害にも遭いにくい。現状、これらの人の支援、安全策が不十分。道の駅は、清川村、八王子市、道志村にあるが、これらと程よい距離で空白地と言える。自転車を謳う町は伊豆にあるが、他は聞かない。ということが挙げられる。</p> <p>対策として、道の駅を整備し、そこに、自転車のベース基地化することで、コース案内や自転車整備場所の提供、自転車を楽しむ人のための駐車場所とすることができる。また、ETCの活用による圏央道のSA機能をもたせて、多面的な道の駅も可能である。ファミリーで楽しめる津久井湖一周サイクリングコースの整備。中野山にマウンテンバイクのコース設置。これらのコースの途中に例えばバンジージャンプなどの各種アクティビティの設置。が考えられる。</p> <p>中野山一帯は財産区所有で開発がしやすいと思われる。将来的には、リニア中央新幹線の回送線を利用した里山駅やテーマパークの設置も期待したい。</p> <p>大きなランドデザインを描いていただきたい。</p>
地区の発言	<p>まず初めに、津久井湖観光センターについてご尽力いただき感謝申し上げます。空き家対策と観光トイレの2点お話しさせていただく。</p> <p>中島緑区長の話でもあったが、空き家対策について藤野地区がモデル地区になっているが、津久井地区でも空き家の施策を講じてほしい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防の様々な対策があり、生活様式、仕事の仕方が変化している。自然豊かな空気の澄んだ緑区の津久井地区は絶好の地域になると考えられる。少子高齢の影響、交通不便地域として空き家が増加しており、今こそ、このピンチをチャンスにすべきである。</p> <p>都市部と豊かな自然の地域の融合、調和が大切であり、古い建物の取り壊し等で空き家対策を市も試みていると思う。また支援策も色々と講じていると思う。</p> <p>例えば栃木県鹿沼市では、100歳時代プロジェクトテレワーク移住をテーマにして市の空き家対策を行っており、茨城県日立市ではテレワークの移住者支援を行っているとのことである。すでに相模原市も支援はしていると思うが、移住者へのさらなる支援を行い、また、空き家を提供する人にも支援策を考えていただければと思う。</p> <p>もう一点、観光トイレの整備を検討していただきたいと思う。</p> <p>観光トイレが汚いという苦情がある。和式しかないトイレや、トイレの整備が出来ていない公園などがある。県の施設、市の施設に関わらず、相模原市にあるトイレは汚いというイメージはマイナスだと考えるため、改善をしてほしい。</p>
地区の発言	<p>老人会単位クラブ会長の立場から、一点お願い申し上げます。</p> <p>少子高齢化社会は、我が国にとっても大きな課題であり、特に旧津久井4町の将来人口予測では、大幅な減少が見込まれ心配している。</p> <p>私は、70歳手前で単位クラブ会長に就任し、その時の会員数は70数名であったが、組織強化を図るべく会員増強に努め、同年代の方々のご理解を頂き、2年後には120数名まで増やし、充実した事業が出来た。</p> <p>しかし、私も83歳になり、会員の平均年齢も高齢化し、今後の組織維持をどうするか心配をしている。</p> <p>現在、未病を改善する活動や生涯学習事業等、積極的に実施をしているが、団塊世代等若年者の加入が得られず、後継者不足により、他の単位クラブにおいて</p>

	<p>も会の維持が困難となり、解散することが想定される。</p> <p>こうした中、先ずは高齢者が地域での生活に生き甲斐を感じ、地域貢献をして悠々自適な生活をしている姿を醸成し、若者に伝える事により、若者の郷土愛を促すと共に田舎暮らしに憧れる都会人にも移住の夢を与える事になると確信している。</p> <p>老人会は「福祉団体」としての役割を果たしつつ、若年会員が担う場を創出し、行政当局の配慮をいただき、「地域活動団体」としての可能性を目指す時にあると思う。例えば、オーガニッククラブのような組織を新設し、営農指導や鳥獣対策、未病対策等を若年会員に委ねることにより、地域愛や交流の場が促進されるとともに、新規流入者による人口増加も期待される。</p> <p>来年度予算編成にあたり67億円の財源不足という財政運営上の課題を抱える中で大変だとは思いますが、新たな政策課題としてお力添えとご指導を賜ります様お願い申し上げます。</p>
地区の発言	<p>魅力あるまちづくりということで、相模原の強みといえば「SDGs」であると考えている。</p> <p>「SDGs未来都市」として選定されており、市長の取組により「SDGs」の市民周知は進んでいると思うが、次のフェーズとして、2030年にアクションを起こせる人材の育成を行う必要がある。</p> <p>今の小・中学生たちに対し、学活や道徳で取り入れて、SDGsを学ぶ機会を提供し、まずは知ること、行動を起こす事ができるようにお願いしたい。</p> <p>まちづくりは人づくりであり、魅力ある人たちが魅力あるまちをつくると思われるため、検討いただきたい。</p>
市長の感想等	<p>津久井地区には、熊谷会長を中心に「つくい元気部会」と「明日のつくいを拓く部会」という素敵な部会があることを嬉しく思う。</p> <p>市長選挙に出る一つのきっかけとして、2年前に読売広告社が地元への誇り・共感等について、関東圏・関西圏の人口10万人以上の151自治体の居住者を対象に行ったシビックプライド調査で、149位で下から3番目であった。</p> <p>相模原は特徴のないまちという声もあるが、これから上を見て行こうという思いで市長選挙にチャレンジし、「シビックプライド」という言葉を使ってきた。</p> <p>これは、市民の皆様が自分たちのまちに対する共感や愛情をたくさん醸成し、まちづくりに参加していただき、72万市民の皆様でシティセールスを行うことで、様々な人に移住、定住していただけるようになるかと考えている。</p> <p>神奈川県民の水の資源の7割ほど、津久井地域の水源地域から供給している。この素晴らしい水源林と5つの湖、複数の県立公園や国定公園を観光ビジネスに活かしていきたいと思う。</p> <p>回送線の旅客化の話は国会議員の時代から国土交通委員会で何度も質問をしている。市長になってからも、JR東海の役員にも話している。やらずに諦めるのではなく、まずはチャレンジすることが大事である。</p> <p>相模原には様々な資源があり、地域愛をお持ちの皆様とともに、これからまちづくり、地域づくりができることを嬉しく思う。</p>

津久井地区は自治会加入率が65%と高いが、市全体の加入率は51.24%であり、自治会加入率を集計している政令指定都市18市中18位と低い状況である。横浜市は相模原市の人口の5倍の人口であるが、加入率は73%であり、相模原市の人口の2倍である川崎市の加入率61%である。相模原市の人口と同じ規模である新潟市や浜松市は、加入率が90%を超えている。

単純に自治会に加入していれば良いというわけではないが、共助の観点からも自治会加入が重要であり、加入率が高い津久井地区の活動を参考にさせていただきたい。

7月に、安倍前総理から「SDGs未来都市」に選定され、議会の皆様の議決を得て、台風被害から災害に強いまちづくりを進めるため、9月30日に政令指定都市としては初となる「さがみはら気候非常事態宣言」を行った。

先ほど話したシビックプライドも78位と順位を大幅に上げている。「SDGs」とともに、相模原の魅力をもっと知ってもらいたいと思っている。

津久井にはいやしの湯という素晴らしい温泉があり、市内初の義務教育学校である青和学園の誕生も、地域の皆様のご理解によるものである。

子どもたちが、津久井地域で生まれ育ち、この地域で働き、この地域でパートナーを見つけ、この地域でマイホームを持てるような循環型の地域にしたい。

新しい移住者も迎え入れて、津久井地域でわくわくするまちづくりを進めてまいりたい。